

る限りは、貧乏は依然として存続するであらう。これに代ふるに人間が自由であり、自治であり、自分自身の主人となる自主的制度がこれに代る時こそ、始めて貧乏はなくなるであらう」と道破せる其の卓見に服する。

從來の社會主義者は、單に分配問題を喧嘩しく云つて居た。分配が公平に行くなれば、而して主人階級の地位が、資本家から國家へ移るならば貧乏は根絶せられ、黄金世界は来るものと信じてゐた。然しそれは謬論である。今日の如く貨銀制度が存続してゐる間は、貧乏は絶れることがない。奴隸制を廢することによつて貧乏は根絶するものである。

△農奴の逃亡  
昔ロシアの農奴が解放せられて自由の身になつた時、彼等は今後自立せねばならぬことを聞いて、却て嘆き悲しんだといふことである。

曾て私は或る労働者に貨銀奴隸制度の撤廃を說いた處が、其の人は迷惑そうな顔をして『それでも貴君、若し貨銀を呉れる人がなく

なつたら、私達はどうして食つて行けるでせう』と反問した。  
吁、今日の労働者はかくの如く完全に心まで奴隸になつてゐるのだ。私は先づ労働者の靈を救はねばならぬ。否労働者令日の物質的隸屬は彼等の精神的隸屬の結果である。彼等に自由を求むる意志